

授業の工夫あれこれ

各クラスでの授業では、子供への興味関心を高めたり、より高い技能を獲得させたりしている。今回は、そういった学習場面を紹介する。

① ネイティブな発音を追求

英語科の学習では、月に二度、A・L・T（アシスタント ランゲッジ ティーチャー）が来校している。ネイティブな英単語の発音を聞いて真似して声を出したり、話したりすることが目的だ。生徒たちも大好きな学習の時間の一つだ。



明るいキャラクターで子供たちにも大人気のスチープン先生。

② ICT機器でリアルさを追求

前号で紹介した、リアルなイラストが描かれた「カ、どこ行った?」の本を使用した国語科の学習。「蚊の飛び音」のリアルさを更に引き出すため、ICT機器を活用している。その方法は、スマホからBluetoothでスピーカーに「蚊が飛び音」を送信。生徒の目の前のスピーカーからその音が聞こえる仕掛けを作った。脱帽。

スマホの音はこのスピーカーから出力されます。



スマホからリアルな音を飛ばします。

③ テクニクの修得を追求

美術科では、「一瞬の光をこらえて」の学習で、風景画に取り組んでいる。モチーフは本校のシンボルである愛宕山。新緑につつまれたこの山を、3色の色を使い分けて「山の色みに深みを出す」テクニックを生徒たちは学んでいる。日が当たるところには、明るい色を、暗い箇所には、暗めの色載せて着色した。

